

Ⅲ 「交通安全の充実」に向けた取組 モデル校：石巻市立中津山第二小学校



交通安全に向けた取組

石巻市立中津山第二小学校

1 ねらい

交通安全に必要な事柄について理解させ、進んでいきまりを守り、安全に行動できる能力、態度、習慣を身に付ける。

2 テーマ

児童一人一人が、交通環境のなかに潜在する交通の危険について理解し、これからの危険を予測して常に安全を確認して行動する力を身に付けさせる。

3 指導時数

時期	対象	内容	時数
4月	全校	春の交通安全教室 及びそれに伴う事前、事後指導 低学年 道路の歩き方、横断歩道の渡り方 中・高学年 自転車の乗り方	各学年 学校行事1時間
6月	2年	校外学習に向けての安全指導 道路の歩き方、横断歩道の渡り方	生活科1時間
2学期	5年	総合的な学習の時間『安全マップを作ろう』	総合的な学習の時間 40時間
9月	全校	秋の交通安全運動 及びそれに伴う事前、事後指導 自動車学校の協力を得て、実際の危険を想定したデモンストレーションなどを行う どのような危険があるか、それぞれの教室で話し合う	学校行事1時間
長期休業前	全校	交通安全について、発達段階に応じて指導を行う	学級活動1時間
4月・6月 10月・2月	全校	下校指導・学校区パトロール 道路の歩き方、横断歩道の渡り方 下校時に災害が起きた場合の対応の仕方 ※本年度については、4月は1年のみ実施	年4回 課外

4 指導の流れ

(1) 春の交通安全教室

本年度は、河北警察署から警察官と交通指導隊の方々に来校していただいた。低学年は、2年生と1年生がグループを作り、学校の周りの歩道を実際に歩行した。横断歩道の渡り方や安全確認の仕方など、警察官・指導隊や教員からだけでなく、2年生から1年生に教えていた。

3年生以上は、自転車の乗り方について、校庭の模擬道路で練習した後、実際の道路に出て練習を行った。練習前に、警察官から自転車の乗り方や簡単な点検の仕方について指導していただいた。

(2) 校外学習に向けての安全指導

2年生のまち探検の事前指導で、見学地に行くまでの道路の歩き方や横断歩道の渡り方について指導した。



(3) 総合的な学習の時間『安全マップを作ろう』

5年生の総合的な学習の時間において、学区内の交通安全マップを作成した。オリエンテーションで、交通安全やマップを作る際の観点について、東北工業大学総合教育センター教授小川和久先生から講話をいただいた。小川先生の講話から、低学年の児童による事故が多いことに気づき、自分たちで「低学年の児童に自分の命は自分で守れるようなマップ」というテーマを決めた。その後、三つのグループに分かれ、それぞれの地域での危険箇所や安全箇所を見付け、マップを作成した。マップを作る際に、四つの観点を決め、その観点を表すマークを作って低学年の児童に伝わりやすい工夫をした。発表については、ただマップを説明するだけでなく、クイズ形式にしたり、安全な行動について手本を見せたりしながら低学年に伝わるような工夫をしながら行った。



作成したマップは、ラミネート加工し、下敷きとして全児童に配付する予定。また、オリジナルのマークは、シール化して、校舎内に貼り、低学年の児童と歩行練習をする予定。

(4) 秋の交通安全教室

本年度は、石巻中部自動車学校の方々に来校していただいた。普通自動車とトラックを使って、ライトの意味や車からの死角について教えていただいた。児童の代表が実際に車に乗り死角を体験した。その後、制動距離の実験を行い、「車は急に止まれない」ことを実際に見て学んだ。また、飛び出しや巻き込み事故のデモンストレーションもしていただいた。



(5) 長期休業前の指導

長期休業前に、各学年の発達段階に応じてしおりを参考に、交通安全について指導を行った。

(6) 学校区パトロール

年4回、一斉下校を行い、道路の歩き方や横断歩道の渡り方などについて確認する。交通指導隊やPTAの役員、民生児童委員や地域の企業の方々のご協力をいただき、児童の下校の様子を見守っていただいた。また、6月の一斉下校時には、「下校時避難訓練」も併せて行い、交通安全だけでなく、防災の面からも自分たちの通学路の安全性について考えた。

5 成果

- 秋の交通安全教室では、自動車学校の講師を招いて、実際の場면을体験したり、目の当たりにしたりすることで、児童の関心が高まり、多くの事を学ぶことができた。
- 安全マップ作りでは、児童が主体的に交通安全について考える姿が見られた。東北工業大学の小川先生の話聞くことで、新しい観点が生まれ、マップ作りのテーマを自分たちで考えることができた。

6 課題

- 新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方々に対しての発表は行えなかったため、児童の作成したマップをパンフレット等にして保護者に配付するなど、周知の仕方を工夫する必要がある。周知することで家庭でも交通安全に対する意識を高めるための一助になったのではないかとと思われる。
- 交通安全教室や安全指導等、知識の獲得や興味関心の高まりはあるものの、自転車地域を走行し始めた学年において正しい走行の仕方が十分に定着していなかった児童もいたため、具体的な場面を想定し、走行の仕方を改めて指導する必要がある。

